

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：曾和寺達磨堂の聖徳太子及び達磨大師坐像				

所在地	吉野郡天川村中谷、曾和寺達磨堂				
所有者(取材 対応者)名	中谷区 ***さん、***・村文 化財保護委員(個人情報守秘)		連絡先 ***さん ***		
			PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：天川村教育委員会 文化財担当の****さん				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	聖徳太子及び達磨大師坐像 1994(平成6)年6月3日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	聖徳太子坐像と達磨大師坐像と一緒に祀られているのは北葛城郡王寺町の達磨寺本堂と、曾和寺達磨堂のみで、両地域の歴史的関係を表すものとして意義がある。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消火器を設置している。	高台の平地に達磨堂単独で建っており、もらい火の心配はなさそうだ。
獣害対策	被害の有無、対策など	
	山間地であり、近所ではシカ、イノシシなどが出没するが、達磨堂に特に被害はない。	達磨堂は高さ2mほどの石垣で囲まれた土台の上に建築されていて、野生生物の影響を防ぐ効果もあるようだ。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	1981(昭和56)年に地区住民の寄付金で部分的に傷んでいた2像を補修し、元の像の偉容を今に伝えている。2像を安置する達磨堂は南向きに建てられており、東側と西側のそれぞれ外側板壁の継ぎ目の隙間から雨水がしみ込み、内側の白壁にシミができています。達磨堂管理の中心になっている***さんは「雨水の浸入を防ぐ修理を行ないたい」と話しているが、地区の世帯数も38まで減っていて、「費用調達は簡単ではない」と言う。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

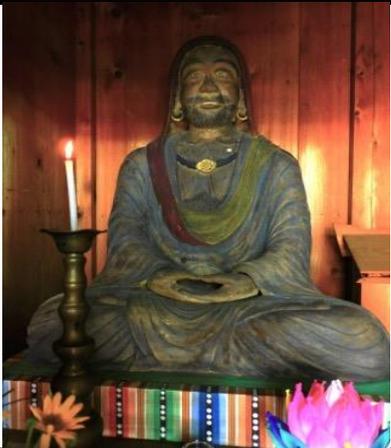
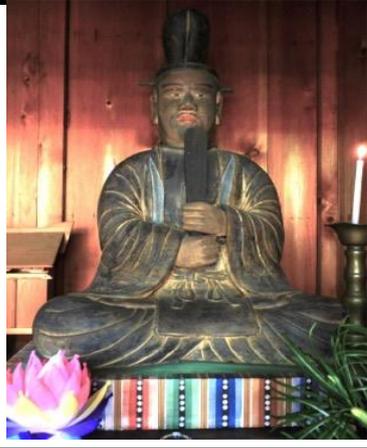
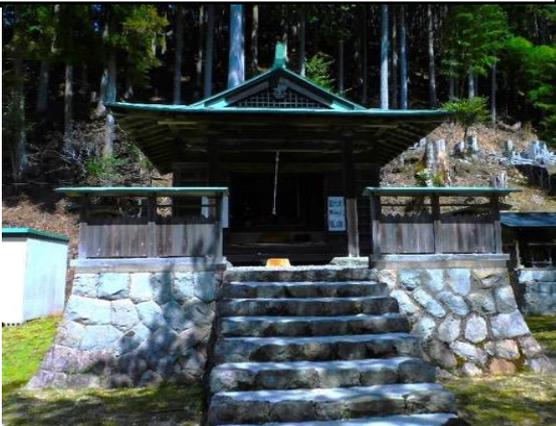
地区の人たちは曾和寺達磨堂を親近感を込めて「ダルマさん」と呼び、毎年10月5日にここで「達磨大師まつり」が開かれ、法要の後、餅撒きも行なわれる。達磨堂正面上部の鉦を鳴らす際に手にとる「鉦の緒」には安産に御利益があるとされ、妊婦さんが新しい鉦の緒を奉納し、その代わりに使用していた鉦の緒をもらい受け、腹帯にする風習が30年ほど前まであったという。人口減少が進むが、住民の達磨堂への愛着は強いものがあると感じた。

市町村指定文化財取材票〈裏〉

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：木曾和寺達磨堂の聖徳太子及び達磨大師坐像				

写真撮影許可済み

文化財指定名 聖徳太子及び達磨大師坐像

達磨大師坐像 (向かって左)	聖徳太子坐像 (向かって右)
	
土台の上に建つ達磨堂	達磨堂内の壁に雨水の浸入でできたシミ
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
<p>冠をいただき、笏(しゃく)を持つ聖徳太子坐像(高さ103cm)、頭巾と僧衣姿の達磨大師坐像(同87cm)をそれぞれ向かって右、左に並べ安置している。いずれも桜材の寄木造り、室町時代後期ごろの制作とされる。この2像が安置される形式は王寺町の達磨寺本堂の聖徳太子坐像、達磨大師坐像(共に重文)と同じ(向かっての位置は達磨寺では逆)。曾和寺達磨堂の2像は達磨寺の2像を模したとみられている。</p>	<p>「天河旧記」などによると、永享11(1439)年に室町幕府は畠山氏が中心に吉野を根拠とする後南朝勢力を攻め、天河郷には畠山氏配下の武士団、片岡氏が侵攻した。天川村在住の郷土史研究者は「当時、後南朝勢力は修験集団と連携し、バックは大和で実権を持つ興福寺。幕府は片岡氏に縁のある王寺の達磨寺を復興させ、天河郷に曾和寺達磨堂を建てることで修験集団、ひいては興福寺を牽制する足がかりにしたと考えられる」と語る。</p>